

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                          |            |            |
|---------|--------------------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 2692600030               |            |            |
| 法人名     | 社会福祉法人みつみ福祉会             |            |            |
| 事業所名    | 認知症高齢者グループホームとだ（紫陽花ユニット） |            |            |
| 所在地     | 京都府福知山市宇戸田小字宮ノ段82番地      |            |            |
| 自己評価作成日 | 平成26年12月28日              | 評価結果市町村受理日 | 平成27年5月29日 |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人理念である「共に生きる」の具現化に向け、「気配り、目配り、そして心配り」をモットーに、ご利用者、ご家族、そして地域に対し、きめ細やかな対応を心掛け信頼関係の構築に努め、事業を展開しています。

ご利用者に対しては、その人らしい生活を送っていただくために、ご利用者の得意分野を生かし、ご本人の意思を尊重するとともに、明るく生活してもらえるように、職員は笑顔で対応し楽しい会話に配慮している。また、地域のボランティアを積極的に受け入れ活用する事で、自事業だけではなく多様なサービスが提供できるように取り組んでいる。地域に対しては、独居を含む地域高齢者との交流、地域高齢者同士の交流の場として「ふれあいサロン」「涼やかスポット」を開催、また、地域の方を招いて「餅つき」など、自治会長、民生委員と連携、協働し地域貢献に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2692600030-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2692600030-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |   |  |  |
|-------|---|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会                                 |  |  |
| 所在地   | 〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅津町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成27年3月27日  |  |  |

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎「共生」→「共に生きる」という基本理念に基づき、～気配り・目配り・心配り～の整合性の高い事業所の理念を掲げ、その実践に努めている。特に事業計画においては地域交流と地域貢献の施策を策定し、開設以来、利用者が地域住民との交流のみに日常生活を営む方向を目指し、地域行事や余暇活動で地域との関わりを強化し、様々な地域性の高い事業に力点を置き展開している。また、同法人が運営する保育園が同敷地内にあり、常時、利用者と共に交流できる環境にあることは、大きな効果と利点となっている。

◎平成25年9月の台風18号により被災し、利用者は避難生活を余儀なくされた。更に翌26年8月にも集中豪雨に見舞われ、当日避難はしたが幸い被災は免れ翌日避難所から戻ることができた。これらの災害に職員は一丸となり利用者の安全と安心を最優先に対応に努めている。

◎この災害を機会に防災に対する認識を高め、新たなるマニュアルの見直しや環境面の対策が強化された。また、利用者の貴重な個別記録類の再生保存にも努め、今もなお、保全管理中である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |

自己評価および外部評価結果

| 自己                | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |  |
|-------------------|-----|--|---|---|--|
|                   |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |  |   |   |  |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 法人理念「共に生きる」を基本理念とした運営方針に基づき、事業計画を作成し、年度初めに全職員に周知徹底するとともに、事業計画に則り全職員が協力し事業展開している。  | 法人理念の「共に生きる」を開設当初からホームの基本理念とし、既に取り組んできた家族・地域住民との更なる信頼関係の構築に向け「気配り・目配り・心配り」を付け加えた。26年度の事業計画に明記し内外ともに発信している。  |  |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | 地域の自治会長、老人クラブ会長、民生児童委員と連携協力し、行事などに地域から来て頂いている。また、地域の公民館にてふれあいサロンを民生委員と協力して開催しご利用者、地域の高齢者との交流の場とするとともに研修の場としている。夏にはホームにて「涼やかスポット」を開催し地域の高齢者に来て頂いた。 | 子供会や老人会との「餅つき大会」をはじめ秋祭りの企画など地域の一員として積極的な参加交流がある。また、事業所の事業計画の中に地域行事・余暇活動・ボランティアの受け入れなど地域との関わりを明記し、地域住民参加による様々な事業や地域貢献を展開している。                      |  |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 6月から京都府の委託事業「認知症あんしん相談窓口」を設置している（現在のところ広報不足が原因か相談がない状況）。また、地域の高齢者に向け「誤嚥予防・健康体操」の講演会を実施、利用者との交流を通し認知症理解の場とした。                                      |   |  |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 運営推進会議にてご利用者及び事業所サービスの報告をし、年度当初には事業計画、事業報告を行い意見をいただいている。今後においては、地域包括ケアシステム構築に向け地域のニーズを掘り出せる場として活用していきたいと思う。                                       | 会議は併設のケアハウスと合同で開催し、メンバーは家族・地元老人会・民生委員・市介護保険課・地域包括センターの他、両事業所・法人関係者である。事業所の状況報告や行事への地域住民参加の呼びかけ、「涼やかスポット」の紹介、市からの情報提供など、ホームと地域との懸け橋的な有意義な会議となっている。 |  |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                   | 運営推進会議にて定期的に事業所のサービス状況など伝え、助言をもらうなどして協力関係を築いている。今後、地域包括事業との連携を強化していく必要があると感じている。  | 推進会議における情報提供のほか、委託による地域あんしんサポート相談室の設定や「涼やかスポット」の提供など、行政との連携を図ると共に相互の協力関係に努めている。   |  |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 7月に身体拘束について職員が講師となり施設内研修を実施し周知を図った。   | 運営規程に「身体拘束ゼロ」への取り組みを明記し、「スピーチロック」や身体拘束防止に関する施設内研修も実施し、マニュアルも設けられている。  | 本人・家族に向けた重要事項説明書や契約書に、取り組みを明らかに示したものが見当たらなかった。書き加えておかれては如何でしょうか。 |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|-----|---|--|---|--|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている     | 7月に虐待防止について職員が講師となり施設内研修を実施し周知を図るとともに職員間で牽制体制をとっている。   |   |  |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が研修に参加しその復命書を職員に回覧し学ぶ機会とした。   |   |  |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | 契約締結時に重要事項説明書により説明をし疑問点については申し出て頂き、説明し理解・納得を得ている。  |   |  |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                  | 運営推進会議に家族代表に参加して頂いている。また、苦情受付窓口職員を配置するとともに日常的に苦情・要望・意見を受け付けている。                                  | 運動会・納涼会・敬老会・餅つき等2か月ごとに家族が参加する行事を開催し、家族との交流の場づくりや意見・要望を聞き取っているほか、利用者の状況を伝えている。特に、水害被災時における避難状況は詳細に伝えており家族との連携を密接に行い、意見・要望を聞き取っている。 | 家族参加による様々な行事を通して家族との連携体制が構築されていることから、この機会に「家族会」を確立されては如何か。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                   | 毎月の職員会議、随時開催のユニット会議、リーダー会議にて職員の意見、提案について協議する場を設け、運営に反映させている。                                     | 毎月の職員会議や臨時的ユニット会議において職員の意見を聞く場を設けている。新年会の余興や入浴対応についての提案、事業計画と予算について話し合いなど行事の見直しに反映させている。  |  |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 正規職員は目標管理シートを含む人事考課制度にて努力、実績、勤務状況等を把握し給与に反映させる仕組みがある。それ以外の職員については、職務状況を把握し、契約更新時毎に評価し給与に反映させている。 |   |  |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている      | 施設内研修にて知識・技術の向上を図るとともに施設外研修にも全職員が参加できるように計画的に進めている。また、法人として資格取得に対し助成制度がある。                       |   |  |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14                           |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福知山市施設連絡協議会の役員として管理者、介護職員が会の運営を通じて交流を図っている。また、グループホーム連絡会を通じて他事業所との交流を図っている。グループホーム連絡会主催の交換実習は、時期的に都合が悪く実施出来なかった。 |   |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 本人の安心を確保するため、本人の困っていること、不安な事、要望などに耳を傾け、信頼関係の構築に心掛けている。   |   |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 家族等が気軽に要望などが言い出せるように、面会時に積極的にコミュニケーションをとり関係づくりを心掛けている。   |   |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 本人、家族等からの情報収集に努め、必要とされていることへの情報提供に努めている。   |   |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 生活全般を通し、できることは一緒に行うようにしている。  |   |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 面会時や電話連絡、毎月の手紙で生活のご様子を伝え、支援への協力を求めている。   |   |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | ご家族の可能な範囲で自宅への帰宅、外泊、通院や理美容室への外出など一緒に行ってもらっている。   | 家族関係や近隣の馴染みの人との関係を継続するため定期的な自宅への帰省・家族との旅行・地域敬老会の参加など、家族の協力のもとに支援をしている場合も多い。 |                   |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |  |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 利用者同士の関係性に配慮しつつ、余暇活動や調理などを通じて関わり合い、支え合えるような支援に努めている。   |   |  |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 在宅復帰される方ではなく、特別養護老人ホーム等の施設へ行かれる方ばかりであり、退所後のサービスは新しく入所された施設に任せているのが現状であり、退所後にフォローを求められることがない。   |   |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |  |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 入所にあたり希望、意向を聞き取りサービスに反映できるように取り組んでいる。聞き取りが困難なご利用者には本人本位に検討しサービスに反映できるように取り組んでいる。   | 利用者の思いを把握するため担当制を敷き、利用者に寄り添い、家族等から話を聞き、センター方式を使い情報収集に努め、職員のその時々「気づき」を個々の記録に書き留めアセスメントに追加し共有を図っている。  |  |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | ご家族、担当ケアマネあるいは利用されていた事業所から情報収集に努めている。  |   |  |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 食事摂取量、排泄状況（把握が必要なご利用者限定）、定期的なバイタルチェック、特記事項のケース記入などにより職員が情報を共有するように心掛けている。昨年度1ユニット増設して以来、新規ご利用者のアセスメントはPCソフトを使用して介護計画につなげている。センター方式を以前使用していたが現在更新ができていない。今後センター方式更にはひもときシートを活用し、もっと掘り下げたご利用者の把握が必要。 |   |  |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族からの意見、要望、思いを課題として介護計画を作成している。短期目標をもっと達成可能で評価しやすい具体的な設定にする必要があると感じている。   | ニーズは、「趣味を活かし楽しみたい」「外に出る機会が欲しい」など、生活の楽しみに着目した内容に記載されているが、援助内容において具体性に欠ける点が窺える。ケース記録も介護計画に必ずしも沿った内容になっていない。記録の視点が曖昧になるとモニタリングに影響が及ぶ。水害等で記録面の被害もあり、導入されているPCのソフトを活用しケアマネジメントの改善を期待したい。 | 当事業所は、地域のボランティアによる余暇提供や、地域資源との協働体制があり、これらは当事業所の強味であり、利用者のケアプランに活かさないでしょうか。 |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の実践、結果を個別記録に残すようにしているが、不十分である。悪い点については、問題提起がありユニット会議などで検討しているが、良い点についての検証が不十分である。  |   |  |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 地域ボランティアを積極的に受け入れ余暇提供に活かしている。  |  |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の文化クラブに参加されている方がいる。また、地域の「ふれあいサロン」や文化祭に希望者は参加してもらっている。   |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | ご家族による通院を基本とし、通院時には日頃の体調や様子を伝えている。通院時には日頃の体調の様子を伝えている。また、往診を受けている利用者もいる。日頃より体調変化があった時はその都度ご家族に連絡している | 利用者は入所前の「かかりつけ医」を継続利用している。往診を受けている利用者もあるが、他は受診時家族が同伴し事業所からはバイタル情報などを提供し、医師の指示を受けている。協力医療機関は設けられており、緊急時は連絡し、24時間対応体制になっている。 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 看護師不在時における利用者の健康面における変化は記録に残し看護師に伝えるようにしている。また、必要に応じて看護師に連絡し指示を仰ぐようにしている。                            |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には定期的な面会と家族、病院からの情報提供をお願いしている。退院にあたってはカンファレンスに出席し状態の把握に努めている。                                     |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 現時点では、重度化や終末期に向けた体制整備ができていない。  | 利用者の年齢も85歳以上が8割弱を占め、家族の要望もあり看取りの方針等の検討を始めている。次年度は、重度化等に関する医療連携体制確保に必要な医師、看護師並びに医療機関との連携体制を確保し、職員研修も含め、取り組みを予定している。         |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 救急救命法の講習会を施設内研修にて実施しているが全ての職員が受講は出来ない。   |  |                   |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 併設のケアハウスと合同で、避難訓練については毎月実施している。うち、水害想定と地震想定を1回づつ実施、水害想定については、当地域からの避難が必要なため、法人内の他事業所の応援体制のもと、高台にある高齢者施設に実際に即した形で実施している。また、地域との協力体制が出来ている。 | 水害と地震を想定し、毎月、同敷地内のケアハウスと合同の避難訓練を実施している。水害を被災した体験をもとにし、法人として緊急避難車輛の確保・防災への機能強化・マニュアルの見直しに取り組んでいる。また、避難場所として、折りたたみベッドを確保した備えや備蓄もしている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 職員会議にて法人の倫理綱領、職員行動規範について説明し周知を図っている。  | 法人の倫理綱領を職員全員に配布し、研修計画に基づき個人の尊厳について言葉使いや介護の心掛けなど、プライバシーへの配慮について研修を実施し、その実践に努めている。また、個人情報の取り扱いについて説明と同意を得ている。                         |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 毎月利用者の話し合いを実施。各担当から事前に希望などを聞き取り次月の行事などに反映できるようにしている。  |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課に沿った支援を基本としているが、利用者の思いを大事にし柔軟に対応している。   |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 身だしなみやおしゃれについては必要に応じて助言する等の支援をしている。   |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食事作りは必ず利用者と一緒にすることとしている。片付けについても可能な利用者には自分でしてもらっている。  | 法人の(ケアハウス)の栄養士が献立をたて、調理を各事業所で行い、利用者には調理や下膳などできることに参加してもらっている。食事中はテレビを消し、職員と共に会話を交わしている。箸・湯呑は個人の持込みとしている。                            |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 基本的に栄養士が立てた献立をもとに調理し提供している。水分についても定期的に提供している。また摂取量を記録し健康管理の一環としている。   |   |                   |

福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 利用者の能力に合わせ、就寝前に歯みがき、うがい、義歯洗浄などの口腔ケアに努めている。  |  |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | 利用者の排泄能力に合わせて定期的な声かけ、排泄介助を行ってできるだけトイレで排泄ができるように支援している。  | 必要な利用者には排泄チェック表を作成し、トイレでの排泄の方向で排泄能力に合わせ、声掛けや誘導又は、介助をし支援している。トイレは各部屋に設置されている。                                   |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | 適度な運動として毎日のラジオ体操、タオル体操をして頂いている。また、定期的な水分摂取をして頂いている。   |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個室で1対1介助でゆっくりと入浴できるようにしている。週に3度を基本とし、希望があればそれ以上の入浴も可としている。また、拒否があれば入浴日をずらして対応している。                            | 1週間に3回を基本として午後に入浴をしている。入浴を拒否する利用者には、声掛けを工夫し他の時間に変更し対応している。入浴時間は一人30分から40分をかけ、ゆっくりと入浴している。季節には菖蒲湯やゆず湯などを楽しんでいる。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 気持ちよく休めるように室温設定を行っている。また、不眠時には傾聴に努めるとともにゆっくり休めるように適切な声かけを行い、睡眠時間が短かった時は、翌日に申し送りを必ずし昼寝をして頂くなど体に無理がないように支援している。 |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている              | 全職員が、利用者が服用している薬の知識の理解を深める必要がある。  |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | センター方式を使用して利用者理解を深めているが、昨年増設による新規利用者の理解を深める必要がある。   |  |                   |



福知山市 グループホームとだ（紫陽花ユニット）

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 天候、気候、利用者の思いに配慮しつつ、日課として施設周辺への散歩に出かけている。また、喫茶や地域の観光名所などへの外出をしている。また、家族にお世話になり多目的の外出をして頂いている。 | ホームの周辺は車も少なく、日課として30分程ホーム周辺の散歩を毎日実施している。また、喫茶店や外食、更に年間行事としてお花見や、日帰り旅行で大江や宮津の方面にドライブし、家族にお土産を買って帰る利用者もある。更に屋外行事・地域行事があり室内に留まることなく、屋外で過ごす機会が多い。 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 本人の希望や能力に応じて家族に了解を得て小遣い程度のお金を所持し外出時に使用して頂いている。   |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 自宅に固定電話あるいは携帯電話を持ち自由に電話されている方がいる。毎月ホームからご家族に出す「ご利用者の生活の様子」と一緒に家族あてに手紙を書かれている方もある。            |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関、食堂、居間、廊下には利用者や寄贈の作品を展示し、照明は和紙の電気傘を使用し軟らかで落ち着いた空間演出を心掛けている。                                | 和紙で作られた間接照明・格子風の窓障子など和風ムードの広いリビングルームとなっており、間仕切りで大小に活用できるようにレイアウトされている。花や利用者の作品で季節感や生活感のある共用空間となっている。大きな窓からの光はカーテンで調節、温度・湿度等の空調管理も適正である。       |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | ソファを活用し、一人でもグループでも過ごせる居場所づくりを心掛けている。   |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 馴染みの物を持ち込んで頂いていたが、昨年度の水害により汚染してしまった。復旧工事にて大事な物が保管できる棚を新たに備え付けた。                              | 全室とも洗面台・トイレ付き、棚（クローゼット）・ベッドを用意し、その他馴染みの物品は持込み自由とし、絵画や写真など家族と共に飾り付け居室づくりを工夫している。   |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 建物内部はバリアフリーにし躓きのないようにし、廊下には手すりを設置し安全に生活ができる環境にしている。  |   |                   |